

トマト萎凋病菌レース 3 は、レース 1 から、非病原力遺伝子 *AVR1* と *AVR2* が変異して出現したとされ、*AVR1* には欠損(−)とトランスポゾンによる破壊(Tn)の 2 タイプ、*AVR2* には 3 タイプの点変異(134G>A, 137G>C, 121G>A)が報告されている。本邦で主に発生していたレース 3 は rDNA IGS 系統樹で A3 クレードに属し(Kawabe *et al.*, 2005)、そのタイプは[*AVR1*, −; *AVR2*, 121G>A]であり、2009 年に高知で分離された株(稲見ら 2010)は[Tn; 121G>A]／A2 クレードであった。今回、福岡(1997 年)、北海道(1998 年)、熊本(2002 年, 2006 年)、青森(2006 年)、愛知(2007 年)、高知(2009 年, 2010 年)から分離された 13 株を供試したところ、6 株(熊本, 福岡, 愛知, 青森, 北海道)が[−; 121G>A]／A3 クレード、5 株(高知)が[Tn; 121G>A]／A2 クレードで、1 株(青森)が[−; 122T>A]／A1 クレード、1 株(高知)が[−; 146C>T]／A2 クレードであった。トランスポゾン挿入で *AVR1* が変異した株[Tn]は高知以外から見出されなかったものの、本邦のレース 3 は新たなタイプの発生によって多様化しつつあることが示唆された。